

令和3年度
教育行政執行方針

 魚の城下町らうす 



持続可能な未来へ
.....
羅臼町教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 羅臼町における教育行政推進の基本姿勢	3
3. 主要施策の推進	
(1) 社会で生きる力の育成	4
(2) 羅臼町の未来を拓く人材の育成	12
(3) 生涯学習や芸術文化・スポーツの振興	14
4. おわりに	20

令和3年度教育行政執行方針

教育長 和田 宏 一

1. はじめに

令和3年羅臼町議会第1回定例会の開催にあたり、教育行政の基本姿勢および主要な施策について申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大など、先行きが不透明で「予測困難な時代」の中、情報化やグローバル化が一層進展し、多様な事象が複雑化を増してきています。

このような時代にあって、学校教育では一人ひとりの児童・生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会づくりの担い手となることが求められています。

この先、当町が持続的に成長・発展していくためには、人口減少やグローバル化に的確に対応しながら変化を先取りした改革を進め、

SDGs 17の目標を念頭にその実現に向けた取り組みが急務であり、豊かな語学力やコミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付け、様々な分野で活躍できる人材の育成が重要です。

豊かな自然環境や歴史・文化のもとで、子ども達がふるさとへの誇りと愛着を持ち、共に支え合い、自らの感性や創造性を磨き、無限の可能性を発揮する逞しい人材へと成長していくことができるよう、町民の皆様と共に「羅臼町教育大綱」を共有し、様々な分野について広く緊密な連携を図りながら、教育の充実・発展に取り組んでまいります。

2. 羅臼町における教育行政推進の基本姿勢

こうした認識のもと、教育行政に望む基本姿勢を申し上げます。

当町の教育目標である「ふるさと羅臼の躍進を創造し、いきいきと逞しく行動する心豊かな町民の育成」の実現に向け、羅臼町教育大綱で示されている「社会で生きる力の育成」、「羅臼町の未来を拓く人材の育成」、「生涯学習や芸術文化・スポーツの振興」の3項目を柱とし、SDGsの目標実現を念頭にした取り組みを推進致します。

また、誰一人取り残すことなく、全ての子ども達一人ひとりが質の高い個別最適な学びと協働的な学びを受けることができるよう、学力・体力の向上をはじめとする教育施策を充実してまいります。

更に、当町が将来にわたり持続的に輝き続けていくため、学校教育や社会教育を通してよりよい社会を創るという理念のもと、地域の活力を支える教育行政を推進してまいります。

3. 主要施策の推進

次に、主要な施策の概要を申し上げます。

(1) 社会で生きる力の育成



はじめに、「社会で生きる力の育成」についてであります。

当町の幼小中高一貫教育は、平成24年に発足し、10年目を迎えます。

現在、幼稚園2園、小学校2校、中学校1校、高校1校となり、一貫した教育の中で、子ども達に確かな学力を育むためには、より緊密に幼小中高の連携が必要です。

そのため小中学校においては、授業の目指す方向の研究主題を統一し、各園・学校ごとの公開授業を実施することにより、授業を検証し研究の充実を図ります。

また、教師個々の授業力を高めることが学力向上に直結致します。

教員の求める研修項目の充実や校内研修、幼小中高による合同研修会や、道立教育研究所と連携した研修講座などへ、主体的に参加する体制づくりに努めます。

更に、新学習指導要領に沿った主体的・対話的で深い学びの学習を推進し、昨年度に策定した「羅臼町学力向上プラン」を推し進め、子ども達が自ら学び、自ら考える授業で一人ひとりに確かな学力の定着を図り、SDGsの4番目の目標である「質の高い教育をみんなに」を目指します。

「健やかな体を育む教育」に関し、小学校において実施した体育専科及び体育エキスパート教員巡回指導事業では、指導法の改善や児童の体力向上に一定の成果がありました。

昨年度の指導方法等を継続し、体育授業を実施し一層の体力向上に向けた取り組みを実践してまいります。

また、成長期の児童生徒にあっては、バランスのとれた食事をするにより、体全体の能力が十分に発揮されます。

そのために、小中学校において栄養教諭を活用した継続的な食育

指導を行い、食に関する知識とバランスの良い健全な食生活を実践できる力を育み、「3 すべての人に健康と福祉を」、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

昨年度、いじめ防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、「羅臼町いじめ防止基本方針」を策定致しました。

いじめを受けた児童生徒の生命及び心身を保護することが最も重要であることを認識しつつ、すべての児童生徒をいじめに向かわせないとする未然防止の取り組みを、学校・家庭・地域、その他関係者相互の連携協力のもと、地域全体で取り組むこととし、「5 ジェンダー平等を実現しよう」を目指します。

幼児教育は、子ども達の生涯にわたる学びと資質・能力の向上に寄与する重要なものであり、幼稚園での活動全体を通して、幼稚園教育要領で定める「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への育みを実現させる質の高い教育を提供できるよう関係機関と連携し、教員の研修の充実を図ります。

また、外国語活動を年少児から年長児までのすべてで実施し、園児

が英語に楽しく触れる活動を実践致します。

小学校生活への不安を軽減させる「スタートカリキュラム」では、その検証を不断に行い、幼稚園から小学校への連続した学びに努め、「4 質の高い教育をみんなに」を目指します。

特別な支援を必要とする園児及び児童生徒については、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うため、きめ細かな教育を行う必要があります。

そのため、個別の支援計画「こんぱす」の活用を促進するとともに、より一人ひとりのニーズに沿った学習とするための指導計画を作成し、当該児童生徒の指導に携わるすべての関係者で情報共有を密に行い、個に応じた適切な指導を行ってまいります。

また、専門的な知識をもって指導できるよう、指導者への研修機会の充実を図ることで、「3 すべての人に健康と福祉を」、「4 質の高い教育をみんなに」の実現を目指します。

当町では、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育を推進するため、町内の幼小中高全ての学校をユネスコスクールに登録し、海の

豊かさや陸の豊かさを守る取り組みの達成に向け知床学として「クマ学習」や「海洋教育」などに取り組んできております。

E S Dを推進してきた当町にとっては、S D G s という具体的ゴールに向かい、これらの理解を深めるため、また、「ふるさと教育」の充実のためにも教職員の研修機会と町民に対する情報発信を推進し、「1 1 住み続けられるまちづくりを」の実現を目指します。

キャリア教育につきましては、望ましい勤労観や職業観を育むための必要不可欠な取り組みであります。

当町の基幹産業である水産業をはじめ、酪農や観光業、食品加工業など多種多様な職業体験の場の確保に努め、児童生徒の将来の職業選択の幅を広げさせることにより、「8 働きがいも経済成長も」の実現を目指します。

昨年度、社会に開かれた教育課程の実現に向け設立致しました「羅臼町学校運営協議会」(コミュニティースクール)は、学校・家庭・地域が学校運営について話し合い、共に知恵を出し、子ども達を育んでいく地域とともにある学校づくりを目指すものです。

事業推進のため配置した、学校・家庭・地域をつなぐ地域コーディネーターの活動が活発にできるよう緊密な連絡体制、情報共有や研修機会の充実を図り、学校・家庭・地域のニーズに応じた取り組みを進めることにより、「4 質の高い教育をみんなに」、「1 1 住み続けられるまちづくりを」の実現を目指します。

子ども達の健やかな発達には、家庭での教育が大切です。

近年、家庭での子ども達の生活スタイルは大きく変化し、SNS利用や生活習慣に起因する様々な課題が浮き彫りとなっており、家庭学習や読書といった時間の使い方にも影響がみられます。

家庭教育の充実を図るため、保護者を対象とした研修会の開催や子育て講演会、生活習慣の定着に向けた学習機会の提供や啓発等を実施し、子どもの健やかな成長と自律、親力の向上への取り組みを進め、「3 すべての人に健康と福祉を」の充実を図ります。

様々な状況下であっても、「学びを止めない」教育環境の実現のため、昨年度すべての小中学校でICTを活用できる環境を整備致しました。

新学習指導要領では、子ども達の学習活動を充実させるためには、ICTの特性や利点を十分理解し、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善につなげることが期待されています。

指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実が図られるよう専門的な研修の機会や先進的な学校での取り組みの情報共有に努めるとともに、ICTによる授業がより効果的におこなわれるよう、一部教科において「デジタル教科書」の導入を進め、「4質の高い教育をみんなに」の実現を目指します。

平成31年4月に「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づく、教育職員の在校等時間の上限等に関する方針として「学校における働き方改革アクションプラン」を策定しております。

教職員の業務の質や効率化を高めるとともに、在校等時間の縮減を図ることにより、日々の生活や教職人生を豊かにさせ、自らの専門性や人間性を高め、子ども達に対して効果的な教育活動を行うための、取り組みの一つとして、「校務支援システム」を導入致します。

また、在校時間等の適切な管理と把握を行うとともに、職員の適切な健康管理のため「ストレスチェック」を導入し、「3 すべての人に健康と福祉を」、「8 働きがいも経済成長も」の実現を目指します。

当町が保有する教育施設等につきましては、改築や長寿命化・修繕等の方向性について調査、検討し、中・長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減を図った上で、教育施設に求められる機能・性能を長期にわたり確保することを目的として「羅臼町教育施設等長寿命化計画」を策定致しました。

本年度はこの計画に則り、両小学校及び春松幼稚園の照明のLED化、羅臼幼稚園の外壁と内部改修を実施し、教育環境の充実を図ることにより、「11 住み続けられるまちづくりを」、「12 つくる責任つかう責任」の実現を目指します。

(2) 羅臼町の未来を拓く人材の育成



次に、「羅臼町の未来を拓く人材の育成」についてであります。

羅臼町で暮らす人々の幸福な人生とより良い町の未来を創造し、輝き続けていくには、「より良い学校教育や社会教育を通じてより良い社会を創る」という理念のもと、学校と地域の連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが重要です。

羅臼高等学校は、当町を持続的に発展させる人材育成の場としての役割を期待するものであり、今後も維持・活性化させていかななくてはなりません。

生徒にとって進学したいと思える魅力的な学校とするため、地域と連携・協働して、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した教育環境を展開し、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを支援することにより、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「11 住み続けられるまちづくりを」の基礎とします。

世界自然遺産「知床」の地である当町にとって、海外への情報発信や多様な国との交流を図ることは大切であり、そのためのグローバル人材の育成に力を入れていくこととしています。

昨年度に引き続き、英語教育の充実のためALT（外国語指導助手）を2名体制で幼小中高一貫して推進し、子ども達が日常的に英語によるコミュニケーションができる力を育ててまいります。

また、児童生徒が自らの英語力の向上を体感し、更なる高みを望む意欲を醸成するため、小学校6年生から実用英語技能検定への受験を促し、将来的には中学校3年生卒業時に実用英語技能検定3級合格率50%、高校3年生卒業時には準2級から2級程度の合格率30%を目指すなど、「4 質の高い教育をみんなに」に取り組みます。

防災教育につきましては、児童生徒の安全確保の観点から、地震や津波、台風などの自然災害において自ら身を守る能力の育成に向け、北海道や関係機関と連携した取り組みの一層の充実が必要であり、各学校での避難訓練の継続的な実施や状況に応じた避難経路の検証を実施するとともに、「一日防災学校」の事業を通じ防災意識を高め、「11 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

(3) 生涯学習や芸術文化・スポーツの振興



次に、「生涯学習や芸術文化・スポーツの振興」についてであります。

生涯学習は、自己の充実や生活の向上のために、自らの意思に基づき、必要に応じて自己に適した手段や方法を選んで生涯を通じて行うものです。

本や様々な資料で学習しようとする人を援助する生涯学習の中心的な施設として、図書館の役割は重要であります。

町民の学習の場としての機能が十分に果たされるよう、機能面や施設面、人的配置など、不断に検証し必要な措置について検討・協議を進めてまいります。

読書活動の推進を図るとともに、図書館の利用促進のため、これま

での蔵書検索システムを利用した情報発信の充実や、学校図書館の町民貸出しを可能とする横断的な検索システムの運用を開始します。

また、子どもの読書活動につきましては、本年度から取り組む「第2期子どもの読書活動推進計画」により読書習慣の定着に向け、親と一緒に読書をする事などの「家庭における読書の取り組み」を推進し、生涯学習の基礎を培い、「1 貧困をなくそう」、「11 住み続けられるまちづくりを」の実現を目指します。

当町の社会教育は、ふるさとの良さを発見し、ふるさとに誇りと愛着を持ち、主体的に行動できる人材の育成を目指す「ふるさと学習の推進」を重点とした「第8次社会教育中期計画」に沿って取り組みを進めております。

昨年度に行われた「知床羅臼NOASOBI・MANABIプロジェクト」により、地域の魅力づくりとして創出した新たなフィールドやコンテンツを活用し、ふるさと学習の充実を図ってまいります。

また、これからの町づくりの担い手として期待される青年層の活発な活動や社会参加を促しながら、核となる人材の発掘や育成を図ります。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各種事業の在り方や実施方法の工夫が求められています。

単に中止や延期をすることなく、できることを模索しながら進めることが大切と考えており、令和3年羅臼町成人式は、来場できなかった方や多くの方々にもご覧頂くことができるよう、L I V E配信を実施致しました。

このような新たな取り組みについて、今後の事業においても必要に応じ導入するなど、映像の力を用いて、町民の皆様にもふるさと学習の取り組みをご覧頂き、事業への参加・協力の輪を広げ、心を結ぶ地域づくりを目指し、「11 住み続けられるまちづくりを」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の実現を目指します。

昨年度実施した「ドローン講座」は、多くの方に参加頂き、大変好評でありました。

ドローンの活用方法は、仕事や趣味の中で多種多様にわたり、大きな注目を集めていますので、正しい知識や操作方法を学び、当町の魅力づくりのための手段の一つとしての活用を期待しております。

今年度は、ドローンなどで撮影した映像の編集や情報発信といっ

た講座の実施も検討し、「8 働きがいも経済成長も」、「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」の実現を目指します。

こまぐさ学級などの高齢者を対象とした取り組みにつきましては、参加者ニーズを把握し、多くの方々が生き生きと心豊かな芸術・文化活動が実施できるよう努め、「3 すべての人に健康と福祉を」、「1 1 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

各種社会教育関係団体やサークル活動につきましては、活動場所の確保として、今年度も学校開放事業や代替施設となる町内施設の利用調整に努め、文化協会等と連携を図りながら日頃の活動が円滑に行えるよう取り組み、「1 1 住み続けられるまちづくりを」を目指します。

社会体育活動につきましては、耐震と機能充実のための内部改修を実施していた町民体育館が、令和3年6月にリニューアルオープンを予定しております。

新たな体育館では、町民の体力向上に寄与できるようトレーニン

グループの充実を図るとともに、スポーツ合宿も出来るよう調理実習室や幅広い利用者層を想定し多目的トイレを整備致しました。

町民の皆様にはスポーツへの関心を高めて頂き、利用拡大につながるよう、スポーツ協会やNPO法人羅臼スポーツクラブ「らいず」と連携して、レジャースポーツやレクリエーション事業を企画・実施し、健康増進とコミュニティーづくりに役立つスポーツ振興を図り、「3 すべての人に健康と福祉を」、「1 1 住み続けられるまちづくりを」の実現を目指します。

昨年登録された、日本遺産「鮭の聖地の物語～根室海峡一万年のみちのり道程」につきましては、1市3町で構成する「鮭の聖地メナシネットワーク」において、この地に暮らす私たちが誇りと愛着をもってその魅力を語り伝えていけるよう歴史的な裏付けと、今を生きる産業の担い手たちの思いを重ね「ますがたずじゅういっぴんさけがたずよんびん鱒形図拾壺品鮭形図四品」の紹介資料を制作することとしています。

日本遺産の深堀りモデルコースを実施する他、地域の宝である食の資源についてもその魅力を整理することとしており、知床羅臼町観光協会等と連携し、地域振興につながる取り組みについて検討し、

「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」、「14 海の豊かさを守ろう」、「15 陸の豊かさも守ろう」の実現を目指します。

当町には先人達が培ってきた文化的活動とそれによって生み出されてきた貴重な文化財が数多くあります。

郷土資料館では、多くの町民に、自らの地域について様々な角度から学び、理解を深める講座などを企画し、郷土に愛着や誇りを持つことにつながるよう、当町の歴史、文化、自然等について学習する機会の提供を図ります。

羅臼町無形文化財第1号であります「羅臼町郷土芸能 知床いぶき樽」は、町の唯一の郷土芸能であり、その歩みや功績を後世に末永く伝えるため、郷土資料館内に資料展示スペースを新たに設け、郷土芸能の保存と伝承に努めます。

また、人口減少が進む中、各種活動において指導者不足という課題があり、羅臼町第8次社会教育中期計画でも指導者の発掘と養成を推進項目として取り上げております。

引き続き、関係団体等と連携を図りながら後継者の育成に力を入れ、「11 住み続けられるまちづくりを」の実現を目指します。

4. おわりに

以上、令和3年度に取り組む主要な施策を申し上げました。

新型コロナウイルス感染症対策により、学校の生活様式も含め、教育を取り巻く環境が急激に変化しています。

この中で、児童生徒が健やかで豊かな学びが続けられる地域づくりを推進するためには、学校・家庭・地域・行政の緊密な連携と、深い理解が不可欠です。

知床学をはじめとするふるさと教育を核としたE S D（持続可能な開発のための教育）を推進し、SDG sの4番目の目標である「質の高い教育をみんなに」を重点目標に、持続可能な教育環境の整備に努め、羅臼町の教育の充実・発展に取り組んでまいります。

議員の皆様をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。